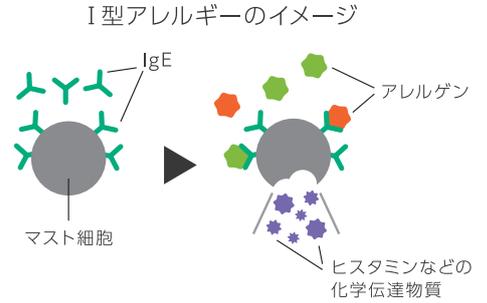


## 犬と猫のアレルギー検査 ～結果の解釈と対応法～

### アレルギーとは？

体を守る「免疫」という仕組みが特定の異物に対して過剰に反応し、体に何らかの症状が起こることを「アレルギー」といいます。アレルギーにはI～IV型がありますが、一般的にアレルギーと呼ばれる反応には、抗体の1種であるIgEとマスト細胞が関与するI型アレルギーが深く関係しています。



### どんな症状があるの？

**皮膚の症状** ▶ 発赤、発疹、痒み、ふけ、脱毛など

**耳の症状** ▶ 外耳炎など

**消化器症状** ▶ 嘔吐、下痢など

### 代表的な3つの疾患

#### 1.アトピー性皮膚炎



環境アレルゲン（ダニ、花粉など）に対して免疫が過剰に反応して起こる皮膚炎です。発症の原因として、遺伝的体質や皮膚バリア機能の低下などが関与し、3歳未満の比較的若い時期から発症するケースが多いのが特徴です。



#### 2.食物アレルギー



アレルゲンとなる食物に反応して、痒みや皮膚炎、外耳炎などがみられます。動物によっては下痢や嘔吐などの消化器症状を併発することもあります。さまざまな年齢で発症します。



#### 3.ノミアレルギー



ノミに刺された際に、ノミの唾液に対してアレルギー反応を起こして発症する皮膚炎です。ノミが発生する夏場に多く、腰部の痒みが特徴です。



写真：鶴沼海岸どうぶつ病院 長谷川 剛 先生ご提供

### 血液検査とその後の流れについて

スクリーニングとして、血液検査が実施可能です。検査結果から原因物質として可能性の高いアレルゲンを絞り込み、臨床症状や他の検査結果をふまえて総合的に判断して、その後の対応を決めていきます。

弊社の血液検査はアレルゲン特異的IgE測定ALLERCEPT（アラセプト）パネルテストを使用しております。

同検査は海外でも広く使われている犬猫専用の試薬で、信頼性が高い検査となっております。

#### 血液検査

アレルギーの原因物質として可能性が高いものを、客観的な指標で絞り込む



動物病院で実施

#### 減感作療法

原因アレルゲンを注射し、体を慣れさせることで体質改善を目指します。アレルギーの根本的な改善が期待できます。

アトピー性皮膚炎、ノミアレルギー



ご家庭で実施

#### 原因物質との接触を減らす

屋内アレルゲンの特徴を把握し、効果的な掃除と管理を行います。花粉情報に注意し、花粉を家に持ち込まないようにします。

詳細は裏面へ

食物アレルギー



獣医師の指導のもと、ご家庭で実施

#### 除去食試験・食物負荷試験

「除去食試験」による症状の改善、「食物負荷試験」による症状の再発に基づいて、食物アレルギーと診断されます。血液検査だけで食物アレルギーは診断できませんが、IgEが陽性となった食物がある場合には、それを含まない除去食を選択するなど、検査は診断の一助になります。

# ご家庭でできるアレルギー対策

## 花粉アレルギー

原因植物の花粉飛散時期を把握し、花粉情報に注意することが必要です。

- 花粉情報に注意しましょう。(テレビ、インターネットなど)
- 飛散の多い時の外出を控えましょう。
- 外出からの帰宅時は、衣服や髪・動物の毛をよく払ってから部屋に入りましょう。
- 換気時は窓を小さく開け、短時間に留めましょう。(飛散の多い時は窓や戸を閉めておく)
- 飛散の多い時は布団や洗濯物の外干しは避けましょう。
- 家の中を念入りに掃除しましょう。(特に窓際)

花粉飛散カレンダー※1

属、科名など	種(例)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ヒノキ科	スギ			●	●	●							
イネ科	ホソムギ												
	ヒロハウシノケグサ												
	ギョウギシバ												
	セイバンモロコシ												
マツ科	マツ				●	●	●	●					
ムクロジ科	カエデ				●								
タデ科	ヒメスイバ					●	●	●	●				
カバノキ科	シラカバ					●							
キク科	ブタクサ												
	ヨモギ									●	●	●	
	アキノキリンソウ												

※1 花粉の飛散時期は、植物の種類や地域、天候等によって異なりますので、参考情報としてご覧ください。

## 屋内アレルギー

原因アレルギーの特定と生息場所を把握し、より効果的な掃除と管理を行うことが大切です。

分類	原因アレルギー	特徴/生息場所	浴室	洗面所	台所(食品)	空気中	壁	押入れ・衣類、クローゼット	畳	じゅうたん	寝具	木材・繊維	書籍・皮革	エアコン	電気機器
チリダニ	コナヒョウヒダニ	チリダニ類は、家の中に居るダニの7割を占めており、人のアカやフケ、カビや食品のクズ、昆虫の死骸などをエサとしています。				●									
	ヤケヒョウヒダニ					●									
コナダニ	ケナガコナダニ	主な食性はカビや植物で、農作物の害虫の一面もあります。広範囲の食品や、食品を包装する容器やダンボールなどから見つかるほか、畳からも大発生することがあります。			●										
	アシプトコナダニ				●										
	サヤアシコナダニ			●	●										
カビ(真菌)	アルテルナリア(ススカビ)	主に屋外に飛散しているカビで、屋内では浴室などの水回りに見られ、高い湿度を好む性質があります。	●	●	●	●	●								
	クラドスポリウム(クロカビ)	主に屋外に飛散しているカビで、雷雨の後に増加する傾向があります。浴室や水回りなどの湿度が多いところだけでなく、屋内の乾燥したホコリからも見つかります。	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	
	アスペルギルス(コウジカビ)	比較的乾燥した環境や高温の環境にも強く、一般的な生活環境のどこでも増殖できます。押入れやベッドの下のホコリ、革靴、枕の下などからもよく見つかります。				●		●	●	●		●	●	●	
	ペニシリウム(アオカビ)	屋内の生活環境で生育するカビで胞子が2μm以下と小さく、気管支の奥まで到達しやすいカビです。餅、パン、ミカンなどに生えるカビとしても知られています。	●	●	●	●	●	●	●	●		●			
虫	ゴキブリ	ヒトでは、吸入性の昆虫アレルギーの代表的なものとして知られています。	●	●	●										●
	ノミ	ノミの唾液によって、アレルギー反応を示します。またアレルギーの他、他の感染を媒介することもあり、ヒトにも被害が及ぶことがあります。													
	蚊	蚊に刺されることによってアレルギー反応を示します。猫に多く見られ、毛の薄い耳や鼻先に症状が現れることが多くあります。													

※2 乾燥して粉々になったダニアレルギーは、風や多少の衝撃で容易に浮き上がり空気中に浮遊します。

### 繁殖の条件と特徴

ダニ：温度は20℃から30℃、湿度60%以上でよく増えて、フケ・アカ・食品のクズ等をエサとしています。乾燥には弱く、湿度50%以下の状態では増えません。  
カビ：ほとんどのカビは温度が20℃から30℃、湿度75%以上でよく増えます。乾燥には弱く、湿度60%以下の状態では増えにくくなります。

### 1. 湿度管理と換気の徹底

- 天気のよい日は、窓を開けて換気をし、雨の日や窓を開けられない時は、換気扇を使いましょう。
- 押入れはスノコなどを使い空気の通りがよくなるようにしましょう。
- 畳の上にじゅうたんを敷くのは控えましょう。(湿気がこもり、ダニ・カビが発生しやすくなります)
- カビは乾燥、日光、熱に弱いので、台所や浴室の小物は時々日光にあてましょう。

### 2. こまめに掃除し、清潔な環境を保つ

- ダニが繁殖しやすいじゅうたんの使用は避けましょう。(フローリングの床が望ましいです)
- 床、畳、布団に掃除機をかける際は、窓を開けて換気しながらノズルはゆっくりと動かし、畳の目に沿って掃除をしましょう。(1回20秒/m<sup>2</sup>の時間をかけることが望ましいです)
- 空気清浄機などを利用し、室内の空気をきれいに保ちましょう。
- エアコンのフィルターはこまめに掃除をしましょう。(冷房機能を使った後は送風運転することで、エアコン内のカビの発生を防ぐことができます)

### 3. 食品(ペットフード)の保管方法の徹底

- ペットフードは密閉性の高い保存容器を使用しましょう。
- 保存容器に大量のペットフードを備蓄しないようにしましょう。
- 賞味期限の切れたものや古いペットフードを与えないようにしましょう。
- 食器はこまめに洗浄し、十分乾かして使用しましょう。
- 空になったペットフードの袋や箱は放置せず、すぐに廃棄しましょう。



### 4. アレルギーの原因となる虫を発生させない(駆除する)

- ゴキブリ・・・通路、潜み場所、侵入経路になりそうな隙間や穴を塞ぎましょう。また、台所の整理整頓、清掃、清潔を心がけましょう。(食べ残しや生ゴミはふた付きの容器に入れ、食材は密封できる容器に保管しましょう)
- ノミ・・・ペットには定期的にノミ予防を受けさせましょう。
- 蚊・・・空き缶やペットボトル、バケツ、側溝など水が溜まる場所や物を無くし、蚊の幼虫であるボウフラのすみかを無くすようにしましょう。